

余話

あさかの学園大学から学ぶ

私は不思議なご縁であさかの学園大学の事務局を二年ほどお手伝いする機会を得た。あさかの大学の入学資格は「耳順」じじゆんを迎えた人であれば、以前の学歴を問われることなく、入学試験もない。私は当初、講師としてお手伝いするはずであったが、事務局員に欠員が出て急遽、常勤勤務となったのであった。それでも、自分の年齢としは棚に上げ、これは老人会の延長か、お年寄りの暇つぶしの会だろうと嵩たかを括くくっていた。いきなり四年生の担当となったが、年齢も近いことだし、何とかお友達にはなれそうだと緊張感もないまま始業式を迎えたのであった。

ところが、授業が始まりこの考えの甘さにすぐに気づかされた。学生さんたちの若々しき、現代の若者が失いかけている礼儀の正しさ、処々の言動。そして、授業時の真剣な眼差しは、向学心かたまりの塊かたまりそのものだったのである。私は学生さんたちに圧倒されるばかりであった。考えて見れば、私と同年代ということは、こども時代を食糧難の時代に育ち、敗戦の価値観の大転換に大人たちが右往左往する姿を見ながら育った年代である。小学校は一学級六十名超のすし詰めで、学制も変わり、新制中学校は俄か作りの体操場の間仕切り教

室であつた。高校へ進学出来たのは全生徒の三割弱ほどであつたと記憶する。教員も不足していたに違ひなかつたが、軍隊還りと女学校を出たばかりの若い先生が多かつたように思う。必ずしもよき時代ではなかつたかも知れないが、与えられた条件の下でみな精一杯生きていた時代だったのである。その悪条件の中で逞しくも育つた歴戦の勇士たち六百名がここには在籍しているのであつた。歴史の嵐の中で順風満帆じゅんふうまんぱんの人生を、過ごして来た人は一人もいないかも知れない。学生の真摯さはそれが原点になっているのかも知れなかつた。それを考えると自ずと私の背筋も伸びた。

カリキュラムはと見ると、文学、歴史、医学、芸術、漢文等々多岐にわたっており、週一コマ二百十分の講義とはいへ、四年間では質の高い教養が身に付くことは多く言葉を要さない。それは、並の大学では垂涎すいぜんの講師陣ともいえる一流の学者、医師、研究者を揃えていたことにも因よるであろう。資料も豊富で、私自身が何度も読み返す価値のあるものばかりであつた。

ところが、この資料作りが私に一大転機をもたらしたのである。それはパソコンであつた。講義資料は表紙の書き換えと一部内容の差し替えに過ぎなかつたのであるが、パソコンは私にとっては悪魔

の箱に見えたのである。私はパソコンはおろかワープロにも触ったことのないアナログ人間であったからである。しかし、この職場ではパソコンが使えなければ全く仕事にはならない。古希こきを目前にして、職場ではもちろん帰宅してもパソコンと格闘する破目になったのである。

散々迷惑をかけた事務局を二年で辞去した後、現在は、「あさかの学園大学」を卒業したクラスで漢文の講義をさせていただいている。学生さんは四年間の学習期間では物足らず、以後、六年間もより高い知識を深める努力をし、十年間通い続けた方々が五十名近くもいるのである。通常の大学ならば修士課程、博士課程から研究生に進んでいる歳月である。正直のところ、私の講義など、それぞれの方々の豊かな人生の復習の足しにもならず、講義とは名ばかりで、むしろ私の方が達人の経験が生んだ果実の美酒を頂いているのは確かであった。よく云われることであるが、「どんな立派な知識もそれだけでは力が無く、また経験だけでは光りを放つことがない」これは学んだ学問に実践が伴わない弱さを指摘したものであろう。学生さんはこの両方を十分充たしているのであった。

もう一つ加えるならば、学生さんは学生さんご自身が半生のご褒

美として、現在の幸せを作ったのかも知れないと言うことである。

私の尊敬する哲学者、森信三先生の言葉に「人の生涯の幸せは等量である」と云うのがある。この文言の解釈には少々説明が要るのであるが学生さんの若い頃の苦勞がいま実っているのである。この大で十年間学べたという境遇は、すでに満ち足りた「幸せ」を手にしたことを何よりも雄弁に物語っていると思われる。

私ごとで恐縮であるが、ある時、ふと、気が付いてみると、パソコンはいつの間にか不思議な魔法の箱に変わっていたのである。「学び始めるのに年齢はない」は現在の正直な実感である。しかも、皆さんには多くのことを教えられたと思っている。

これからも皆様方のこれからの意義深い人生の安寧と末永いご多幸を心よりお祈りするばかりである。その昔、兼好法師は「寿永ければ辱多し」と書き残したが、かの人は南北朝の時代に六十二歳まで生きたと云われている。現代ならば百歳にも匹敵する年齢である。

あさかの学園大学で十年間学び、ここで蓄えたエネルギーは必ずや百歳を可能にすると信じて疑わない。